

緑の相談所だより

- 61号 -

1999. 12. 1発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会のご案内

お正月リース作り

日時 12月18日(土)
午前10時~12時

講師 野の花り沙
古川りさ子さん

材料費 1,400円

持ち物 花ハサミ、古タオル、
ビニール袋(新聞紙用)

1月は講習会は休みます。

季節の花

カランコエ

Kalanchoe
blossfeldiana
ベンケイソウ科

花ことば
…あなたを守る

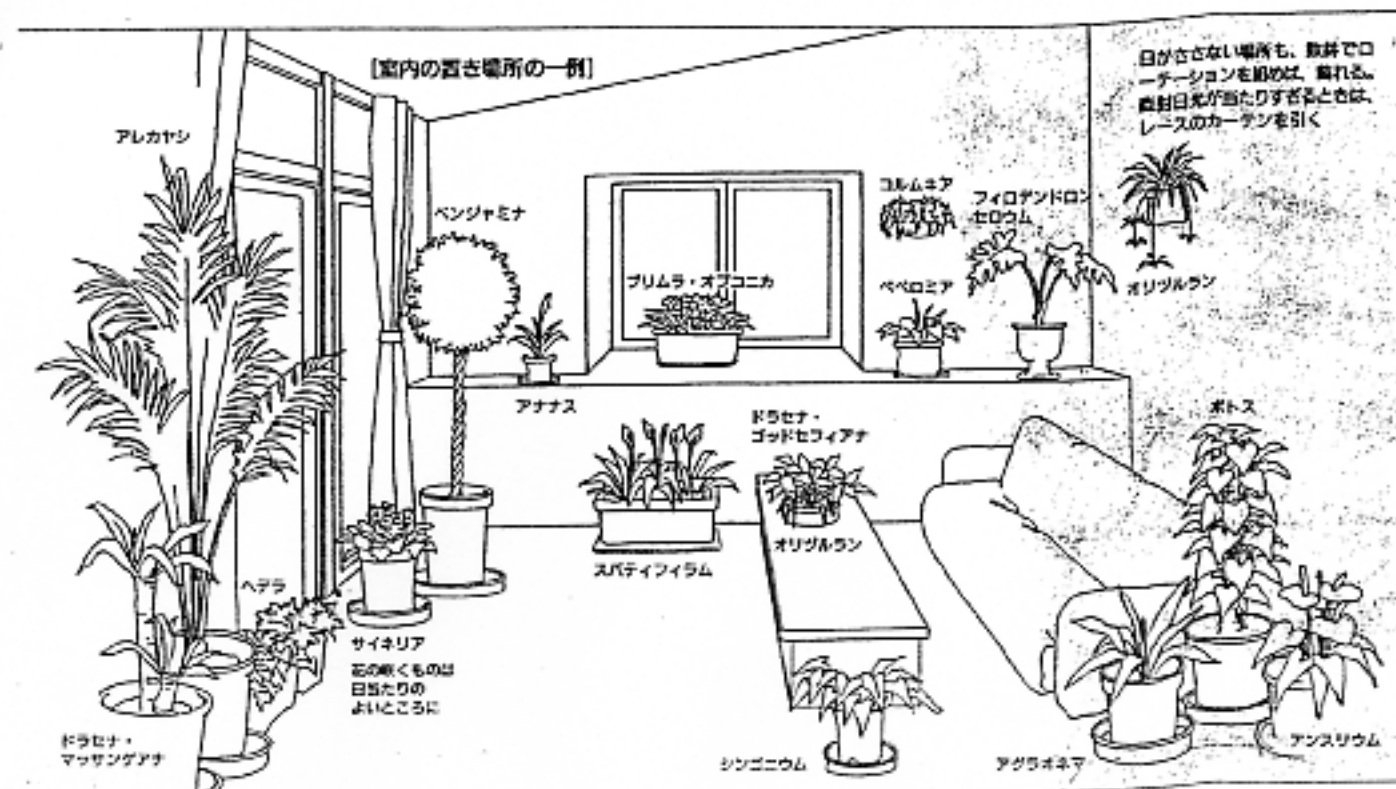


マダガスカル原産の多肉植物。リビングなど夜間も明るい場所に置くと花芽がつかないので注意。土の表面が乾いたら水をやり、過湿にならないように。花後、花がらは取る。

4~5月ごろ、草丈を半分くらいに切り詰める。2~3年に1度、5月ごろ植え替えをする。

お問い合わせは ☎ 65-5553へ

観葉植物・鉢花の室内での置き場所





材
料
・
焼
固
材

素焼き鉢……粘土を成型し、900℃前後で焼いたもの。通気性、水はけにすぐれている。こわれやすい。

駄温鉢……約1,000℃の高温で焼いたもので、素焼き鉢より硬焼きで、色はやや濃く、枝の部分に釉薬がかかっている。

化粧鉢……駄温鉢より高温で焼き表面全部に釉薬が塗ってある。鉢回りからの通気性、水はけは悪い。オモト、盆栽などの観賞鉢に使われている。

プラ鉢……成型しやすいのでデザインが豊富。
軽くこわれずらい。通気性、水はけは悪い→水もちが良い。



形

既高鉢



(口径より高さがある胴長タイプ)
葉の張りが広くなく縦に伸び、根が太めのものに。
ゴム類、シェフレラ、ドラセナ、コルジリネなど。

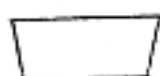
標準鉢



(鉢の口径と高さがほぼ同じ)

ほとんどの植物に。

浅鉢



(鉢の高さが口径の1/2)
丈が低く根が横張りするものに。
アザレア、ペゴニア・センパフローレンス、レックスペゴニアなどに。

壁かけ鉢



吊り鉢用植物が同様にむく。

吊り鉢



つる性、半つる性植物に最適。
プライダルベール、ポトス、ハートカズラなどに。
また、やや垂下するシャコバサボテン、キンレンカ、アイビーゼラニウム、オリズランなども。

スタンド鉢



キンレンカ、リーガスペゴニア、つる性の植物に。
シネリアなどボリュームのあるものに。

寄せ植え鉢



半球の変形型の鉢に数種の植物を寄せ植えする。
リーガスペゴニア、プリムラ、スパシフィラム、ポインセチア、ゴールドクレスト、ポトス、トラディスカンチア。

ラン鉢



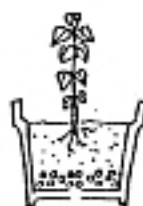
(鉢壁が軽い曲線を描く)
市販のラン類は根が太く、長く、多いので葉形に似合う栽培・観賞用に。

バンジー、シャスターデージー、パーペナ、サルビア、ペチュニアなど。



鉢が小さすぎると、育ちすぎた根が酸素不足になり、窒息してしまふ。

①
②
③
④



不釣り合いな大きさの鉢に植えると、根の量が少ないので、土がなかなか乾かず根腐れを起しやすくなります。

温室の植物たちの横顔 その1

1. ブラシの木 (別名キンボウジュ=金宝樹)

温室の入り口を入ったすぐ前にある。幹から細くて長い枝が伸びており、先の方に赤い穂のような花が咲いている。

この花を見るとだれでもが瓶や試験管を洗うとき使ったブラシを思い出すだろう。和名の由来であるが英名もまたポトルブラシである。

南半球のオーストラリア、タスマニアの原産でフトモモ科の花木である。

この木の花は、枝の先端ではなく枝の途中に咲くという変わった特徴を持っている。しかもブラシに見える真っ赤な花は花弁ではなく長くのびた雄しべだ。その証拠に先端に黄色い花粉がついている。

本当の花は中心部に密集しており、その周りに多くの雄しべが伸びている。学名はカリステモン。ギリシア語の「美しい雄しべ」という意味もうなずける。

花期は普通、春から夏であるが温室では冬でも運がよければ見られる。花がなくても観葉植物としても楽しめる。生育適温は15~20度が耐寒性もあり-4~-5度まで耐えるから、鉢植えて冬は室内に入れると旭川でも十分楽しめる。

本州では露地植えのものを時々見かける。挿し木で増やすこともできる。



ブラシの木
〈*Callistemon speciosus*〉

2. ラン

温室の右奥に洋らんのコーナーがある。冬はカトレア、シンビジュームなどいろいろな洋らんの花の時期である。

ランは植物学的にみてもっとも進化したものといわれ、洋らんの豪華な花形や色彩、東洋ランの渋くて奥深い姿などに興味が尽きない。

ランを英語でオーキッドという。語源はギリシア語の睾丸を意味するオルキスに由来するという。華麗な花になんでこんな不細工な名前が付いたかということ、丸く対になった塊根を持つランがあり、その姿が睾丸に似ている、というのでオルキダケアエという学名がつけられた。

オーキッドという語源がこんな茶目っ気からついたというのも面白い。約2300年前にアリストテレスの弟子が「植物原因論」の中でOrchis (オルキス)の 名で記録したのが始めという。

中国では蘭、梅、菊、竹が四君子として尊ばれ、孔子(2500年くらい前)が「詩経」で「蘭は香りあるものの王」と称えている。

日本では江戸時代「蘭を有するもの、国を有する」とある。ランを古今東西、特別に扱う風潮がある。



ラン
〈*Orchidaceae*〉

12・1月の鉢物室内管理

厳寒期になりましたが、明るく暖かい室内で色々な鉢物を並べ楽しんでおられることでしょう。この頃の家は昼夜暖かく、広い窓辺があり冬の室内で育ち楽しめる植物の種類も豊富になってきました。

しかしこれらの鉢物の多くは本当に好きな自然の環境に置かれているわけではありません。12、1月のこの不慣れな環境のなかで花を咲かせ、また花が終わった後も大事に育て、来年も楽しませてくれるよう出来るかぎり植物に合った環境づくりをしてあげましょう。

ポインセチア

高い温度と日光を好みますので昼は暖かく明るい窓辺に置きます。夜も温度15℃以上に保たないと落葉します。長く楽しむために時々薄めの液肥を施します。

オンシツコナジラミの好物です、葉がベタベタと光り出す前に見つけ根気よく退治します。花後、または落葉してしまった株は涼しい場所で休ませ、暖かくなってから剪定、植替えし、育て直します。

シクラメン

明るいとこが好きですが、暖かすぎる部屋では長持ちしません。昼の温度は20℃前後、夜は10℃程で良く育ちます。水やりは土の表面が乾いたらすぐに球根頂部にかからないように、液肥も10日に1回必要。花がら、黄変した葉等は茎の根元をひねりながら抜き取り次の花の伸びを進めます。時々葉茎をかき分け株元に光を入れると元気を回復します。

シャコバサボテン

開花中は低温気味で長持ちします。水は控えめ、肥料は不要。花後は涼しい部屋に置き春まで生長を抑えておきます。この時株の高さを揃えるよう葉先を節で摘み、摘み取った葉先を挿し木し新しい株を殖やしても良い。春に古い株なら植替します。

アザレア

10℃以下の寒いところで休んだ後、暖かい部屋に持ち込むと蕾がふくらみ開花します。開花中は低温気味(20℃以下)で花が長持ち。水は少量、肥料不要。花後は花がらを摘み、春まで寒い部屋に移動休ませます。

エラチオールペコニア

日当たりと高温を好みます。夜間温度は15℃以上に保ちます。光線不足では株が徒長し、良い花を着けません。昼夜の温度差が大きいと蕾を落とします。花を着けなくなったら切り戻し植え替え、再生させます。

お正月に咲いたウメ

花が咲いたら涼しい場所に、花が終わったら新芽を伸ばさないように寒い部屋に春まで置きます。水少量、肥料不要。

ブーゲンビリア、ハイビスカス

熱帯性の花木類で強い光線と高温を要求します。冬の室内は温度は確保出来ても日照量は不足勝で良い環境とはいえませんので、いま咲いている花を楽しんだ後は水やりを控え低温状態にして株を休ませ、春になってから剪定し植替えるのが無難です。

観葉植物

強い光と高温が好きな種類が多く、冬の室内では水を控え低温気味にし生長を抑えるような管理をしますと、光の少ない部屋の隅でも長く緑が楽しめます。葉の汚れと乾燥を嫌いますので、時々葉に霧吹きします。

葉の表面がべたついたようになるカイガラムシの被害も多くなります、ブラシ等で拭き取るか、殺虫剤で駆除します。